

詠む広場

毎日俳壇

小川 軽舟選

キャンパスに白衣の教授野分晴

奈良市 上田 秋霜

△評▽実験室以外でも白衣のままの研究熱心な教授だ。野分きが過ぎたら、もう白衣でキャンパスを行ったり来たり。

青々と蛇の目に澄みし新酒かな

東京 菊池 和正

△評▽底に青い蛇の目のある利き酒用のちよこ。搾りたての酒がうまさうで喉が鳴る。

風が来て影さらひけり秋桜

北本市 萩原 行博

トンネルの出口の夕日秋立ちぬ

飯塚市 倉田 幸男

降灰に塗れし草を引きにけり

小林市 黒木 暢

秋灯や姿勢正しく人相見

香芝市 山本 合一

コスモスや石の鼻園守る

葛城市 山中 健司

床の間の秋海棠や夕日影

多賀城市 矢崎 英敏

マンションの全員他人アマリリス

熊本市 夏風かをる

テレアポの言葉しつこし熱帯夜

奈良 米田 勉

西村 和子選

手花火の背後に人のある気配

神奈川県 中島やさか

△評▽実在の人ではなく、いつも見守ってくれた亡き人かもしれない。花火は送り火のひとつであり、「気配」は時空を超えて。

待ち惚け食はされ秋蚊叩きけり

西尾市 金子 恵美

△評▽腹立ちまぎれにびしりとたたいた音が聞こえるようだ。秋の蚊はとりわけ執念深い。

ことのほか紅茶あざやか今朝の秋

奈良 高尾山 昭

幼にも恋敵あり秋桜

横濱市 菅沼 葉二

降り出せば早秋霖といふ気配

岡山市 三好 泥子

淡交の姫の一生墓洗ふ

東京 鈴木真理子

点々と灯る団地や秋西

倉敷市 行本 章允

校庭に夜遊びのあと朝曇

土浦市 今泉 準一

母校はや予選敗退雲の峰

八街市 山本 淑夫

藤寝椅子くつつき合つて漫画本

飯塚市 倉田 幸男

井上 康明選

一本の滑走路抱く大花野

宇治市 濱岡 学

△評▽一本の滑走路を抱いて花野が広がり、名もない草の花が咲いている。大切な飛行場を、花野が守っているかのようだ。

雁渡し卓に広げる旅の地図

甲府市 清水 輝子

△評▽カリが渡る頃の北風が吹く。促されるように、旅の行程を仲間と確かめているのだろう。

二人消すクラス名簿よ鱗雲

川越市 益子さとし

陰陽師隠れてゐたり葡萄の実

相模原市 はやし 央

母の忌の森につくつく法師かな

秦野市 安藤 泰彦

見上げたる釣鐘よりの秋の声

東京 望月 清彦

みほとけの金の剥落秋のこゑ

相模原市 小山 鞠子

朝顔が咲いてのつしと日が昇る

唐津市 梶山 守

打つたに汗の吹き飛ぶ大太鼓

弥富市 富田 範保

携帯の画面の傷の残暑かな

白杵市 村上 玲子

片山由美子選

出航を見送る人の秋日傘

相模原市 はやし 央

△評▽見送るといのは別れの場面でもあり、秋晴れの日はいいさびしさかたじけなく。それを秋日傘が象徴的に伝えている。

天井をしばらく眺め昼寝

羽生市 今成 公江

△評▽誰にも覚えのある感覚だろう。現実の世界へ戻ってくるのにしばし時間がかかるのだ。

おもしろきテレビもなく夕端居

津山市 森下 弘

案山子とはわかつてゐても夜の道

甲賀市 藤田 啓子

百日紅一花残さず掃きたるに

和歌山市 曾根 澄子

ひと言も今日は話さず秋の暮

鎌ヶ谷市 海野 公生

白芙蓉たつぷり朝の空気吸ひ

豊田市 内山 幸子

百幹の竹の葉すれや雁渡し

土岐市 水野 雅子

読み聞かす千夜一夜や星月夜

我孫子市 桑原真喜子

三人の仏と暮らす盆の月

大阪市 隠樹ノリエ

うたは奏でる

みひらくばかり

染野太朗

魅力的な歌集の刊行が続いている。上川涼子の第1歌集『水と自由』も印象深い一冊だった。対象をじっくりと、ときに直感的に、しかしつねに冷静に観察し、そこに生じるボエジーを妥協のない言葉選びで一首にまとめあげる。語るべきトピックの多い歌集だが、ここではとにかく3首を紹介してみたい。

・瑠璃とは時の眼かてのひらに載すればしんとみひらくばかり

時間をやや擬人化し、メノウをその目に見立てている。それをのひらにのせるが、しかし何の反応も示さない。時間の目とは結局何なのか、見開くばかりであるということが何を象徴するのか、といったことは正直なところよくわからない。だが少なくとも、一つの鉱物が出来上がるまでの途方もなく長い時間に思いを馳せ、その歳月をてのひらで重く受け止めている、といった読み方をすることは可能だと思う。目の前の一粒のメノウと長く対話しているような歌だ。

・花の名の書かれし札をひとつつつみな確かめて蜂のごとしも

公園の花壇、あるいは花屋だろうか。札に書かれた花の名を一つ一つ確認していく。そんな自分を、もしくは誰かを、蜂のようだなと思った。端正な文語の歌だが、比喩もごくシンプルで、先に挙げたメノウの歌とは違い、軽やかでかわいらしい感じもある。歌のバリエーションの豊かな、それゆえに何度でも読みたくなる歌集なのである。

・キャットフィッシュ・レコードは古きアパートの一室にしてタトゥー屋のとなり (そのめ・たろう「歌人」)